

## 在宅者歯科医療と介護保険

(老人とADLを柱として)

— 8020運動の推進とかかりつけ歯科医機能の向上を—

愛知県歯科医師会

専務理事 坂井 剛

平成元年に8020運動を始めて以来、本会は8020表彰事業と平行して様々な疫学調査を行ってきた。その結果、8020達成者は未達成者に比べて骨密度が高く、歯周疾患も無く、全身の健康度も非常に高いことが分かった。

若い世代からこの運動を熱心に推めることで8020達成者が増えれば、2025年時点で予測される520万人の要介護老人を大幅に減らし、明るい活力ある長寿社会を実現できる筈であり、21世紀における歯科界は、大きな社会的役割を荷うことになるだろう。平成8年には日歯の努力によって厚生科学研究「口腔と全身の健康についての研究」が発足し、1.8020達成者のデータベースの構築、2.咬合状態に起因する他臓器の異常、2つの研究が始まった。この研究は、全身の健康作りへの歯科の役割について、又、歯科疾患と糖尿病や高血圧、更には骨粗鬆症等の成人病との関係について、多くの確かな情報を提供してくれるものと期待される。

“老人とADL”はこの研究の1つとして保健衛生大学医学部リハビリテーション科、才藤助教授を班長とし、仙台市、熊本市、愛知県の三地区で行う研究のテーマである。在宅寝たきり老人や特別養護老人ホームの要介護老人の口腔環境の改善や咀嚼機能の回復が全身のADLの向上にどう役立っているかを学術的に解明し、長寿社会における我々の役割を確認しようとするものである。

平成12年の介護保険法の施行に向けて今、様々な準備が進められている。要介護老人の日常生活の中で食事の占める割合は大きく、口腔ケアの重要性は、介護関係者の多くが認めるところである。かかりつけ医は介護認定に際して医学的管理の必要性に関して意見書を提出する役割があるのに対し、かかりつけ歯科医の位置づけはまだ無い。介護について我々はもっと勉強しなければならない。

地域保健法施行の今年は市町村で8020運動を展開する年でもある。厚生省歯科保健推進事業として、1.成人歯科保健事業。2.かかりつけ歯科医機能支援事業。3.在宅要介護者歯科保健事業。4.8020運動推進特別事業を予算化、全国的に推める構えである。本会としても上記4種の助成事業をできるだけおおくの市区町村で実施できる様、本会の組織、機構を整え支援する計画である。診療所で8020運動を実践する歯科医からかかりつけ歯科医へ進むには往診というハードルを越えなければならない。介護における口腔ケアは在宅歯科医療が先あって始めて成立する。ケアプランに専門医として意見書をつけられるようになる為にはもっと多くの知識を持たねばならない。老人とADLの調査は歯科保健医療の幅を広げ、高齢社会に於るかかりつけ歯科医の役割を確かにするであろう。

(平成10年1月31日 宮崎県歯科医師会在宅歯科医療研修会講演要旨)